

解答

□

問一(例) 重い脳を支え、両手を使うことで、人類の進化を加速させたという意味。

問二(例) 歩くことが人間の条件と考えており、歩く目線で作られた世界に戻りたいという願い。

問三(例) 博士は、自分の障害に、あきらめることなく向き合っている。想像を超える困難があるはずだが、歩くことにこだわる生き方に感動した。ぼくも、今後様々な困難とぶつかるかもしれない。そのとき、自分らしさを失わず、理想を追い求める生き方をしたいと考える。

□

A [一] 進 [一] 退・[一] 長 [一] 短 B [自] 作 [自] 演・[自] 画 [自] 賛

C [不] 眠 [不] 休・[不] 老 [不] 死 (A～C、順不同)

□

問一(例) 最下位 問二 4 問三 a [涙を] こぼしたら b [力が] はいって

問四 6から(ので) 7 のに 問五 8笑い 9泣く 問六 1・4 (順不同)

□

問一(例) 蟻はただ気味が悪いだけで、ほとんど無害である[から。]

問二(例) 蟻の生存に必要な豊かな自然を破壊する化学物質や殺虫剤など[。]

問三 1 皆殺しに 2 共生を図る 問四 ア 問五 豊かな自然 問六 すなわち

□

問一a(例) 小学校の先生から友だちを五六人数え上げよと言われた一二歳のある日。 b(例) 雑誌社から交友関係についてたずねられた大人の作家である現在。

問二(例) 尊敬すべき存在で気軽に声をかけにくい[とと思っていた。] 問三 エ

問四 (1) (例) 自分の座席の「周囲の四五人の子供の名[を書いた。] (2) (例) 私以外の本当に仲の良い友達の名[を書いたと考えられる。]

問五(例) 許しておくれよ。私はあなたを忘れていた。私にはたくさんの友達がいるから

問六(例) 私の名前を書いたとうそをつくこともできたのに、私の名前を書いていないと本当のことを言ってくれた[から]

問七(例) いや、言わないだろう[。] (おぼつかないのである・自信がないのである・言ってくれないだろう・言っはくれまい)

問八(例) 人と和しがたい性格のために、本当の友達がいらないこと[を自覚させられるから。]

□

① 生来(性来) ② 資質 ③ 不得手 ④ 発揮

解説

【講評】初の聞き取り問題が出題された。また大問数の変化、自由記述の設問が増加するなど、これまでの傾向とはやや異なるものであった。聞き取りが加わり、文章の長さは短くなったものの、自由記述が例年の三題程度から一気に六題になったことから、受験生は時間配分に苦勞したと思われる。例年より難易度は上がったといえよう。

□

聞き取り。従来の作文形式とはやや異なり、放送を聴いて、三つの設問に答える記述式の問題と考えてよい。ただし、字数は合計二百字と従来の作文と同じであった。

□

四字熟語。二字の空欄の一つは語群から選べばよいが、もう一字を自分で考えなくてはならないのが、やや難しかったかもしれない。

□

助詞の使い方や、自動詞・他動詞、語句の意味・成り立ちなどを問う問題。

□

論説文。三島次郎『街角のエコロジー』より。本当の「怖さ」とは、目に見えるものではなく、目に見えないものであり、それを理解できる理知的な人間になってほしいという主張。指定記述が多いが、附設特有の短めにまとめさせる問題で、難易度は高い。

□

随筆文。佐藤春夫『好き友』より。友達のいない孤独な筆者の気持ちをていねいに読み取る必要がある。自由記述が六題と例年より大幅に増え、時間的に受験生は苦勞したと思われる。

□

漢字。従来は文章問題の中にあっただが、今年は独立したものとなった。